

受付係を務め、大会運営をサポートするブルデンシャル生命保険金沢支社の社員  
—県立自転車競技場



**ブルデンシャルが大会支援**

◇…大会では、ブルデンシャル生命保険金沢支社の社員がボランティアスタッフとして大会運営をサポートした。最終日は社員19人がゴールで受付係や誘導係などを務め、「完走おめでとう」などと声を掛けて出場者をねぎらった。社員12人は、それぞれ家族とともに大会に出場した。

**聴議員も銀輪運ねる**

◇…最終日の一日コースには、聴覚障害院議員が出場した。東京へ戻る飛行機の出発時間が迫ったため途中棄権したが、沿道ではかのかの出場者と銀輪を運ねた。



**ツール・ド・のど最終日**



20日に最終日を迎えた第27回「ツール・ド・のど400」。能登半島一周サイバル・サイクル2010は、七尾市を出発した出場者787人がゴールの県立自転車競技場（内灘町）を目指して力強くペダルをこぎ進んだ。ゴールでは、それぞれ思いを胸に3日間で全長409.3キロを走り抜いた出場者が、ともに走った仲間をやり迎え、た家族と笑顔を並べた。  
【一面に本記】

**充実の409キロ 健闘たたえ**

疲れがまじりと声が上がる中、先頭集団がバルセロナ五輪トラックレース代表の小嶋敬二選手にサポート隊とともにゴール。両手を上げたり、観客に手を振るなど思い思いに喜びを表現した。閉会式では、参加者が互いの健闘をたたえ、来年の再会を約束した。

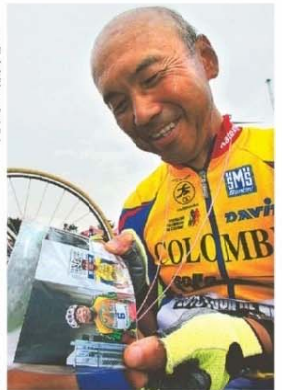
チャンピオンコースを完走し、達成感に満ちた表情の（左から）古川さん、川端さん、柏木さん、北出さん  
—県立自転車競技場



**連続出場4人 「来年も走る」**

第1回大会から今大会まで連続出場を続ける選手も全行程を走破した。ゴール後には達成感に満ちた表情で、「来年も走る」と早くも記録更新への意欲を見せた。  
チャンピオンコースで連続出場を果たしたのは、川端明さん(62)内灘町、柏木寛明さん(56)群馬県安中市、古川博人さん(47)白山市、北出裕一さん(43)金沢市の4人。川端さんは年々きつくなっているけど、ゴール後の達成感を味わいたくて続けている。孫と出るまで頑張る」と力を込めた。  
18、19日の一日コースそれぞれ参加した高峯明さん(61)輪島市も22大会連続出場を果たした。

**感動 完走の喜び**



大会を走り抜き、完走証を手に笑顔を出して記念撮影する出場者  
—内灘町の県立自転車競技場

完走し、横山さんと写した写真を見詰め、田中さん  
—県立自転車競技場

田中敏美さん(59)は、三重県桑名市に、今大会を心待ちにして、8月17日に70歳で急死した友人横山明允さん(東京都武蔵野市)の写真を持って、チャンピオンコースを走り抜けた。  
2人が知り合ったのは、田中さんが初めて出場した第5回大会、何度も顔を合わせるうちに親しくなり、そうして毎年出場するようになった。ほかにも知り合った。

**三重の 田中さん**

「完走した仲間たちとも申し合わせ、同日に泊まり、一日一日が終わるたびに自転車談話に花を咲かせた。今大会も再会を誓ってエントリーしていた2人だったが、横山さんは8月28日早朝練習中に自宅近くの公園前で倒れた。突然の出来事にショックを受けた田中さんだが、「『のど』が好き。』『のど』だけは必ず走る」といつも語っていた横山さんの分も

**急死の友人の分も… 遺影を胸に力走**

走ろうと、前回大会で完走した際に撮影した写真を持って出場することにした。  
志賀町の機賀岩、珠洲市の海岸線、能登町の嵯峨、横山さんの好きだった場所を通るたび、田中さんは写真を持ち上げて、それぞれの風景に向けたように。  
完走後、写真を見詰めた田中さんは「安らかに眠ってほしい。横山さんにはもう会えないが、来年もまた『のど』で話をしたい。」とつぶやいた。

**感謝**

第22回「ツール・ド・のど400」は3日間の日程を無事終了しました。沿道の皆さまの応援、ボランティア関係各位の協力に深く感謝いたします。  
ツール・ド・のど400実行委員会  
北國新聞社